

◇学校運営の反省と次年度に向けた構想 齋藤優子校長

- 今年度も児童に身につけたい資質・能力を重視した多様な取り組みをしてきた。「カリキュラム・マネジメントによる資質・能力の育成」においては、核となる総合的な学習・生活科と関連教科においての探究的な学びを推進した。修学旅行、自然教室、町探検、横山の歴史、農業、福祉等で実践し、各学期でPDCA サイクルでの振り返りを大事に行ってきた。また、意欲が高まる魅力ある単元・授業づくりでは、教材研究に力を入れ、外部講師の活用を図りながら取り組んできた。
- 「地域や保護者とともにつくる学校」においては、稲作体験、町探検、同窓会による環境整備、相撲大会等において地域の方々から協力を頂いた。保護者からは、年間 10 回の親子読書、生活リズムづくりや危険箇所点検に協力を頂き、PTA研修会では、酒田光陵高校の情報科の先生を招き、「親子で学ぼう！メディアの活用」と題し研修することができた。「地域よこやまサミット」や「よこやまサミット」での語らいの場を通して学校を支えて頂いた。
- 児童に身につけさせたい「振り返る力」「対話する力」「見通す力」については、学校研究と学習指導部の両輪で主体的な学び合いのある授業づくりに取り組んできたことが、子どもに力をつけることに結びついてきた。教科の見方・考え方を大切にした授業づくりについては、これからも研修していく。「魅力ある学校づくり」への取り組みも子どもの意識の高まりにつながってきている。
- 子ども達と一緒に考えてきたこととして、前回の協議会でも話した休み時間の遊び方で怪我が多いということ、言葉づかいで嫌な思いをしている子がいること、あいさつ・会釈をしっかりする必要がある。怪我については年度当初よりは減ってきている。保健室を通して、子ども達と先生方との関係づくりを大切に考えながら見守ってきた。会釈は増えた。「横山しぐさ」の点からも継続したい。雑巾の干し方がよくなった。些細なことではあるが大切にしたい。今後も、遊びのルールを守ることや相手の気持ちを考えた「言葉」で話すことを指導していきたい。
- 地域防災・学校防災の連携について、今年度は、クマ出没時の対応ということで、県や町教委からの通達を共通理解し家庭の協力を頂いた。県から研修会の知らせがあったので、1月に全校でクマ対応の研修を行った。
- 児童会・委員会活動の主体的な取り組みとして、ミニ運動会、学校をきれいにしよう、給食マナーについて等、新しいアイデアあふれる活動を行ってくれた。次年度、児童数の減少にともない、ボランティア委員会と給食委員会を一緒にした委員会活動の見直しを進めている。
- 働き方改革にかかわって、家庭の理解を得ながら、学級だよりの隔週発行、勤務時間の15分前倒しに取り組み、勤務時間の意識改善を行ってきた。子どもの生活実態に合わせた勤務時間の変更により、インフルエンザが流行り始めた時等、児童の登校状況を速やかに掌握できた。
- 「魅力ある学校づくり」アンケートについても、前回の協議会で7月の結果で、6項目のCやDと評価された部分を上げたいと話した。12月のアンケートでは、その中の5項目で、AやBの評価に上げることができた。全ての教職員で子ども一人一人を支えてきた成果でないかと考えている。
- 保護者アンケートでは、「楽しく学校に通っている」(92%)「友だちと仲良く遊んでいる」(96%)「保護者の悩みに適切に対応している」(90%)と高い評価を頂いた。一方で課題に上げられたのが「食事・生活リズム進んで整えようとしていない」(38%)「家庭学習・読書を進んでしようとしていない」(37%)であった。生活リズムは町の養護教諭部会で作成した生活リズムカードを活用していくので、家庭と連携し取り組んでいく。読書は好きだが、家庭ではあまり読んでいないという課題がある。



- いじめに関するアンケートでは、昨年度より減少してはいるが、心の安心・安定が学習にも結びつくものなので、件数が減ったからと安心はしていないし、根気よく解消に向けた指導を繰り返している。子どもの心の動きに寄り添った指導・支援を継続している。
- 次年度の構想として、山形県教育目標・三川町教育目標を受け、学校教育目標と児童に身につけたい資質・能力は継続する。「経営理念」から「めざす学校像」へ変え、みんなで「気づき考え実行する」とした。学校全体で取り組む重点事項の中で、「魅力ある学校づくりの推進」を明記し、学習指導では「学ぶ楽しさ、わかる、できるを味わえるような授業づくり」を大切にしたいと考えている。
- 日課表の見直しでは、通年5時間授業にして(クラブ・委員会のみ6校時)全校下校が増える。生活の凹凸をなだらかなものにして児童の負担をへらす。毎日の朝読書で静かに始業準備に入る。清掃後に毎日短時間学習(15分)をとり、実習等がある場合60分授業も可能になる。授業日数は年間で1日増える。(204日)週2回のロング昼休みは、子ども達も楽しみにしているので変えていない。
- 次年度は、全校で144名(-12)9学級(-1)新1年生は、19名を予定している。行事面では、5年生の自然教室を10月末に移動している。5年生が田植え等もあり行事が続くこと、暑さ対策等への心配を減らせることで次年度試したい。「あのねシート」「いじめ発見アンケート」を3回から5回へ増やせたらと考えている。(4月・6月・8月・11月・1月)
- 持久走記録会を発展的見直しでやめる。理由は、児童数の減少や男女比のアンバランス、暑さ対策からの健康・安全面でのリスク回避、ただし、持久力アップの取り組みは「楽しい」体育授業の推進等で継続する。
- 令和8年度より、三川町4校ともネットバンキングによる新たな集金システムになる。

◇学校運営の反省と次年度に向けた構想への質問・意見 委員より

- ・体育の時間に外部講師等がやってきて指導してくれていることで、子どもも楽しみにしている。
- ・伝統を大事に考えながらも、児童数の減少や男女比に配慮して、委員会活動や行事を変更していくことは大切なことだと考える。
- ・子どもたちのアンケート結果で、自己肯定感や自己有用感の項目が上向していることがよかったと思えた。さらに関連し、主体性や創造性が育ってくれるといいなと思った。PTAとして生活リズムや家庭学習に何か協力できたらと感じている。
- ・雑巾の干し方については大切なことだと感じる。また、会釈をすることは来校した時に感じ、雰囲気が変わったと思った。言葉づかいについては、成長するに従いドキッとすることがある。家庭でも注意していきたい。
- ・アンケートのCやDの子どもに寄り添って改善していただいていることに感謝したい。生活リズムや食事に関わることへの意識が低かったことは残念である。新聞を読むことが少なくなったことは、家庭で新聞を取らなくなった、大人の新聞離れも影響しているかもしれない。

◇その他学校課題や熟議テーマについて

- ・少子化が進む中で地域との関りはより重視したい。特に子どもが地域の方と触れ合う機会や地域の方が学校に関わっていくことが大切である。
- ・学校が地域にどの様な協力を必要としているかを発信することも大事だ。学校では、学校行事のサポートだけでなく授業協力についても考えたい。
- ・小規模のよさを活かした地域協力は今後、さらに大切になっていくと思う。